

## 平成26年度政務調査活動実績報告

会派名 県政会

代表者 中内 桂郎

四国8の字道路網の早期の実現へと力を入れた。特に高知県に於いては、遅れている中で、窪川町（四万十町）への乗り入れまでが実現したが東部ではまだまだの感がするので今後、力を入れたい。乞うご期待の事は大きい。

産業振興計画では、安芸市を始め、県下15地区を歩いてみた。そこには一部のリーダー的な人によって運営を感じた。県としても実状把握に力を入れてしっかりと頑張ってもらいたい。

県都と地域との格差があることを確認し今後積極的な支援体制を考慮して行く必要を感じた。

観光振興対策では、県外の観光客の受け入れを重点的にしたい思いが強く、県に立場上での対応をしたいとの思いが強く感じられたがその到達度は時間がかかると思った。観光客が400万人以上の来高が評価に値する。

中山間地域では依然として足腰が弱く、今後県の方からの援助や協力が必要であると思った。

又、雇用対策では県下全般に渡っては依然として、弱いように感じた。土木事業には全般的に景気が良く評価する。臨時雇用に力を入れるのではなく、正規の雇用の幅を広く展開するように願望する。

教育問題は全国的にはまだまだと云った感がする。一石二鳥のように物は動かずと考えられるので今後注視をしたい。いじめ問題や暴力対策もしかりである。教育は金の力もあると思うので、福祉と行政ともしっかりと力を合わせた取り組みが今後必要だと思った。やはり県としては教育に力を入れるべきだ。

南海地震、津波対策は、県政の重点対策である。どの地域に力を入れるとか云ったたぐいを捨てて県下全般に渡って幅広く活動に力を入れたいと思う。県としては、山津波にも万全を尽くして対応を願いたい。

その他の県政課題については、県知事との政策協議での間で話をして、着々と推進に力を入れた。目線は大きく開いて、庶民的な活動に力を入れる方針。